

市民の郷土愛が、祭りの原点

第7回かすみがうら祭

秋のかすみがうらを彩る第7回かすみがうら祭が11月3日の文化の日に開催されました。祭りを支えているのは、実行委員会をはじめ、手塩にかけて育てた農水産物やその加工品販売の出店者、パネル展示やステージで日ごろの活動の成果を発表した参加者のみなさんです。

Camera Report



人々を引きつける出店

約80団体を超える物産店テント。手塩にかけた農水産物や加工品などの販売が行われました。「美味しいよ」「出来たてだよ」と元気なかけ声が響き、訪れた人々は、かすみがうら市の「ご当地グルメ」を楽しみました。

観客を魅了するステージ

太鼓や民謡、郷土芸能など日ごろの練習の成果を舞台上で披露。歌手の堀内孝雄さん、高山巖さん、前田有紀さんが出演した歌謡ショーでは、会場から大きな歓声が沸き上がりました。保育所の子もたちのかわいらしい遊戯発表や志士庫小の鼓笛隊の演奏など観客を魅了しました。

目を楽しませる展示作品

文化・芸術作品会場のB&G体育館内には、書道、切り絵、盆栽、水墨画など多彩な作品が勢ぞろい。会場に訪れた人々は、思い思いの視点と鑑賞方法で展示作品を楽しみました。

↑第7回かすみがうら祭ポスターコンクールで最優秀賞を受賞した白井姫花さん(佐賀小)

陶芸クラブ

陶芸作品を自分の手で

陶芸クラブは、旧出島村立公民館で昭和56年に15人の熱意により発足しました。

先輩方の手作り道具や釉薬などを大事に活用し、「ろくろ作り」「板作り」「手びねり作り」など、粘土と格闘しながら、思い思いの形に作り上げています。

「あじさい館ホールの月例展示」「生涯学習フェスティバル&文化協会祭の展示・販売」などで日ごろの成果作品を披露しています。

あなたのアイデアを形にしてみませんか！！

活動日時▶毎週水曜日 10:00～15:30

場所▶あじさい館「陶芸・工作棟」

☎清水 ☎029-897-0053



←毎週楽しみに集まり、仲間の意見を聞いたり、教わったり、話し合ったりしながら和気あいあいと活動しています。

水芭蕉の尾瀬目指したる遠き日の仲間三人のかの夏恋し
受話器取り「すくく元氣よ」とウソをつく妻えゆく老の身引きずりながら
弟の五七忌終えて振り返る甲府盆地は暑く昏れゆく
初雪となりたる立山室堂に色鮮やかな二羽のうそどり

宮本和子(中佐谷)
目黒しづ子(稲吉東)
遠藤富重(下稲吉)
大西 周(稲吉東)

小室貞江(西成井)
小貫弘子(牛渡)

市民学芸員 雑記帳

市民学芸員▼市の歴史・文化などを学ぶ市民学芸員養成講座を修了し、認定された方たち。現在31人。今後の活躍が期待されています。

佐賀小学校の歴史と二宮尊徳像

佐賀小学校の歴史と共に大切にされているのが校舎前の「二宮尊徳」の肖像です。
江戸時代末期に各所で少人数の「寺子屋」式の学問所が始まり、明治25年ごろから「般若寺」の敷地内に佐賀尋常小学校として、2教室ほどの校舎が建てられました。明治43年には、般若寺から東側の小字「前内」に本格的な校舎が建てられ、昭和33年ごろまで50有年間の学校教育が行われていました。学校の正面には宮型の石造りの立派な「奉安殿」があり、左側に石造りの「二宮尊徳」の肖像が建てられていました。昭和25年に現在の郷土資料館の場所に新たに佐賀村立佐賀中学校が設けられましたが、この中



坂本義也さん(坂)

坂本義也

この肖像には、昭和13年に佐賀村西方集落の折本左衛介氏により寄贈されたことが記されています。どの場所にあっても尊徳の肖像は大切に扱われ、尊徳の勤労と勉学の精神に学ぶ教育が重視されてきました。このような先人に学ぶ生き方を市民学芸員として伝えていきたいと思っています。

学校も8年後に出島村立北中学校に統合され、佐賀小学校はこの郷土資料館の場所に移転しました。その後、田伏小学校と統合し、昭和53年に現在の佐賀小学校の場所に移転しましたが、小学校の移転とともに「二宮尊徳像」も移転しています。